

# DX推進指標 自己診断結果 分析レポート

## 自己診断結果における 自由記述テキストの分析【概要版】

2026年3月31日

独立行政法人情報処理推進機構  
デジタルトランスフォーメーション部

本レポートは2025年5月7日に公開した「DX推進指標 自己診断結果 分析レポート（2024年版）」の付録として、自由記述のテキスト分析の情報を提供する。

テキスト分析では、DX推進指標の自己診断結果の中から、エビデンスとアクション欄の自由記述内容を扱う。自由記述欄には、各企業がDX推進に取り組む中での課題や、今後積極的に取り組むアクションプランを記述している。これらのテキストを分析することで、DX推進に取り組んでいる企業が注力している取り組みや改善案に対する洞察を提供する。

特に推進指標のキークエスチョンである指標1から指標9に絞り、重点指標についての取り組み内容が分かるレポートとしている。

テキスト分析には、テキストマイニングの手法を用いる。テキストマイニングは非定型の文章データを計量的かつ機械的に分析することで、対象となる文章データの全体像を把握しながら、文章中に頻出する言葉や語と語の繋がりが発見でき、データの中で注目すべき箇所を把握することができる。

テキストマイニングには近年汎用的に利用されているソフトウェアのKHCoder Version 3.02を利用した。

# 分析の目的と対象

「DX推進指標」自己診断 フォーマットver2.4

「DX推進指標」自己診断票

[自己診断内容一覧 \(参照用\)](#)

DX推進のための経営のあり方、仕組み

DX推進の枠組み（定性指標）

必須項目

未入力箇所があります!

キークエスチョン

サブクエスチョン

ビジョンの共有)

データとデジタル技術を使って、変化に迅速に対応しつつ、顧客視点でどのような価値を創出するのか、社内外でビジョンを共有できているか。

未入力箇所があります!

現在 *	→	目標 (3年後) *
------	---	------------

【成熟度レベル】

レベル0: ビジョンがない。ビジョンが提示されていない。
レベル1: ビジョンは提示されているが、現場の取組はビジョンに紐づいて行われているとは言えない。
レベル2: ビジョンが明確に提示され、一部の部門での取組がビジョンに整合的に進められている。
レベル3: ビジョンが明確に提示され、全社での取組がビジョンに整合的に進められている。
レベル4: ビジョンが明確に提示され、全社での取組が、ビジョンの達成度合いで評価するモニタリングの仕組みにより、持続的に進められている。
レベル5: ビジョンがグローバル競争を勝ち抜くことができるものとなっており、全社での取組が、グローバル競争で勝ち抜くとの認識の共有の下に、持続的に進められている。

なぜその成熟度と判断したかの根拠、確認方法/エビデンス等 (任意)

アクション欄 (任意)

DX推進指標では、DXの成熟度を35指標ごとに、レベル0からレベル5までの6段階で評価する。

そして成熟度の回答にあたっては、なぜその成熟度と判断したかのエビデンスと、あるべき姿を目指すための次のアクションを合わせて回答してもらうことを推奨している。

エビデンスとアクション欄は自由記述であり、記載するかどうかは回答者の任意としているため、記載があった場合のみ分析の対象としている。

# テキスト分析のプロセスおよび結果のまとめ方

まずDX推進指標の現在値の平均ごとに成熟度によって低（レベル0、1）、中（レベル2、3）、高（レベル4、5）の3段階のグループにわけた。そして各指標にまつわるキーワードに着目して、グループごとにキーワードに関する記述内容を生成AI（ChatGPT-4o）で要約し、文章を生成した。

## （例）指標1のプロンプト

「低グループの記述の中で、ビジョンに触れている代表的な文章を3つピックアップしてください。  
各文章は50文字以内にまとめてください。」

次に低、中、高の全グループのテキストから、頻出単語を抽出し、3段階のグループ間で関連の強い単語を特定した。この頻出単語の上位のキーワードは、その文章の中で頻りに話題に上がっている語句であり、この次に行う対応分析の原点に集中して登場する語句でもある。

次に対応分析を行い、各グループに特徴的な語を特定した。  
そしてグループごとにそのキーワードについてどのようなことを書いているのか、生成AIを用いて、実際の記述内容を要約してもらい、例示となる文章を生成した。

## （例）指標1のプロンプト

「低グループの記述の中で、現在、レベル、具体、提示といったキーワードを使用して、低グループの例示テキストを作成してください。文章は100文字程度にまとめてください。」

そして例示テキスト中での下線は対応分析中に現れ、注目した語句である。

# 指標1 ビジョンの共有

ビジョンという語に注目し、各グループがどのように述べているかを確認した。生成AI作成の文章は下部左側に記載。

**指標1の設問：**データとデジタル技術を使って、変化に迅速に対応しつつ、顧客視点でどのような価値を創出するのか、社内外でビジョンを共有できているか。

## 低グループ（成熟度0，1）

- ・ 中期事業計画未策定でデジタル活用方針が不明確。
- ・ データドリブンの判断が実施できず、危機感が薄い。
- ・ 現状維持では企業存続が危ぶまれると感じている。

DX推進に向けたビジョンはあるが、具体的な取り組みに繋がっていない、もしくは社内での共有が不十分であることがうかがえる。

## 中グループ（成熟度2，3）

- ・ 社内でビジョンを共有し、取り組みを進めているが浸透は不十分。
- ・ DX推進に向けたビジョンが各部門で共有され、進捗が管理されている。
- ・ 経営計画に基づくビジョンが示され、全社での取り組みが進んでいる。

DXの取り組みが経営戦略の一部として位置付けられており、ビジョンの達成状況を評価する仕組みが整っていることが強調されている。

## 高グループ（成熟度4，5）

- ・ 長期ビジョンが策定され、全社での取り組みを支える体制が整っている。
- ・ 経営計画に基づき、ビジョンの達成度をモニタリングする仕組みがある。
- ・ ビジョンが社内外に共有され、具体的な行動計画が策定されている。

目指す姿やビジョンを明確に定義し、社内外問わず、積極的に共有している様子が見える。

# 指標1 ビジョンの共有

エビデンス欄でよく使われている語に注目し、現在値のレベル別に特定した対応分析結果（下図）と、キーワードを使用して生成AIが作成した例示テキストを示す。下線は注目した語句。

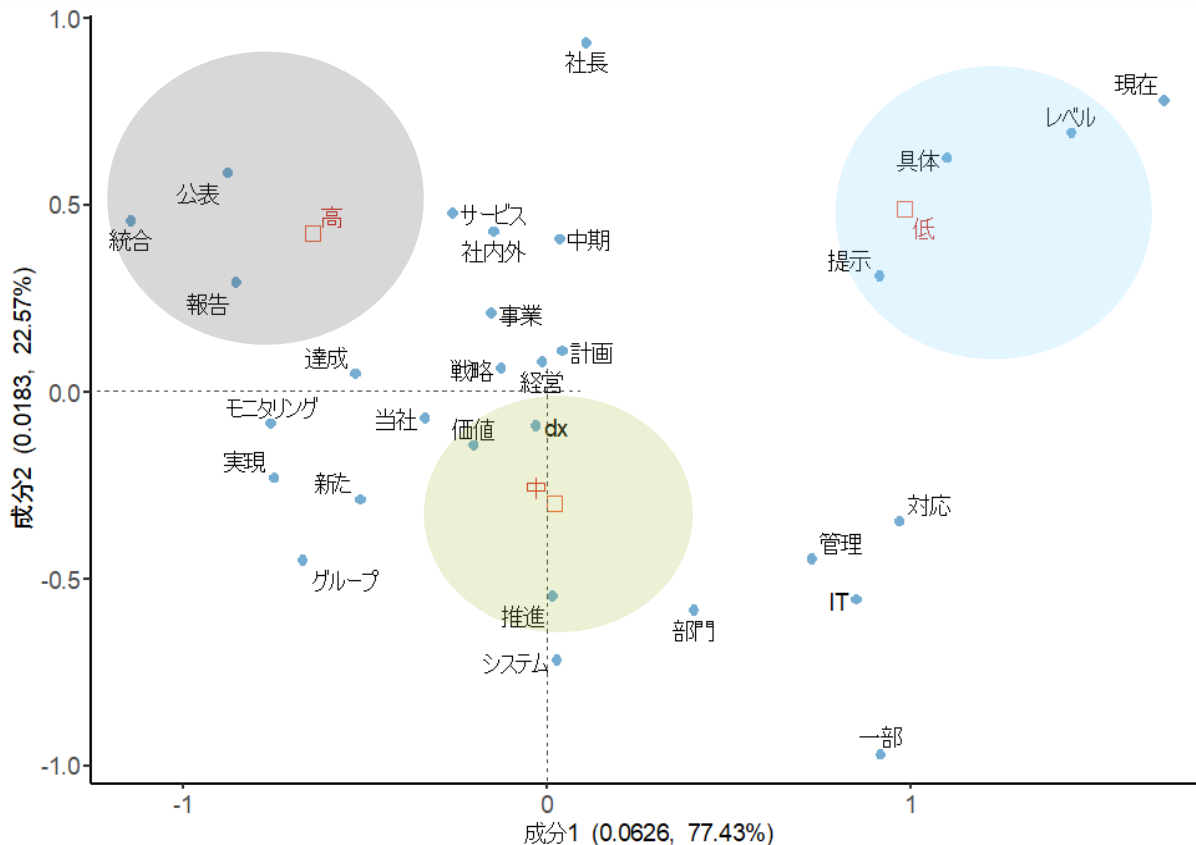


図 3-1 指標 1 エビデンスの対応分析

## ●低グループ（成熟度 0, 1）

「当社は中期経営計画を策定し、各部署に部門目標を提示していますが、デジタル技術を活用した具体的な取り組みが未整備であり、現状の成熟度レベルは低いと評価しています。」

低グループでは、DX推進のビジョンや具体的な方針が欠如しており、全社的な取り組みは進んでいないことがうかがえる。

## ●中グループ（成熟度 2, 3）

「当社は、DXを推進することで顧客に新たな価値を提供することを目指している。具体的には、デジタル技術の導入により業務効率を高め、顧客満足度の向上を図る取り組みを進めている。」

## ●高グループ（成熟度 4, 5）

「当社は中期経営計画に基づき、DX推進に関する統合報告を定期的に公表しています。これにより、全社的な取り組み状況を透明にし、成果を報告しています。」

中グループは、顧客価値の創出を目的とした施策を進めていることが分かる。そして高グループは、統合報告を通じてDX戦略を公表し、進捗状況を明示している。

# 指標2 危機感とビジョン実現の必要性の共有

危機感という語に注目し、各グループがどのように述べているかを確認した。生成AI作成の文章は下部左側に記載。

**指標2の設問：**危機感とビジョン実現の必要性の共有：将来におけるディスラプションに対する危機感と、なぜビジョンの実現が必要かについて、社内外で共有できているか。

## ●低グループ（成熟度0, 1）

- 中期事業計画未策定でデジタル活用方針が不明確。
- データドリブンの判断が実施できず、危機感が薄い。
- 現状維持では企業存続が危ぶまれると感じている。

危機感を持ちつつも、実施体制が不十分であることが分かる。

## ●中グループ（成熟度2, 3）

- 社内環境データの可視化が進むが、全社員への共有は不十分。
- マーケット変化への敏感な反応が求められるが、実施が不十分。
- 内外環境の変化に対する迅速な意思決定が求められている。

データの可視化が進んでいるものの、社員への共有や変化への対応が追いついていない、もしくはこれからということがうかがえる。

## ●高グループ（成熟度4, 5）

- 業界全体の変革に対する理解が必要であると認識している。
- 新たな技術の進展によりビジネスモデルの革新が求められる。
- デジタル化の進展が遅れると、競争に取り残される危機感がある。

危機感を持ち、積極的に対応策を講じていることから、企業の成熟度や戦略的な方向性において差があることが示されている。

# 指標2 危機感とビジョン実現の必要性の共有

エビデンス欄でよく使われている語に注目し、現在値のレベル別に特定した対応分析結果（下図）と、キーワードを使用して生成AIが作成した例示テキストを示す。下線は注目した語句。

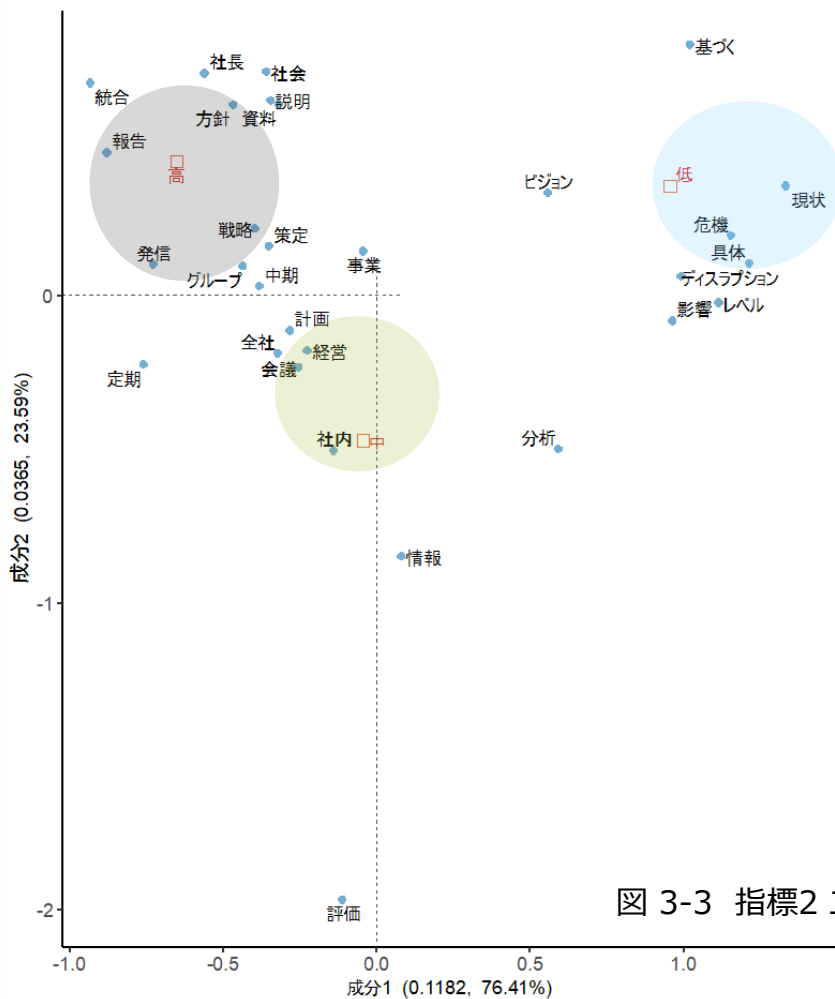


図 3-3 指標2 エビデンスの対応分析

## ●低グループ（成熟度0，1）

「現状のビジネスモデルが崩壊する危機感はあるが、具体的なデータに基づく分析やビジョンが不足しており、社員全体への浸透が不十分のため、迅速な対応が求められている。」

低グループは危機感を感じつつも、社内に浸透しておらず、ビジョンや戦略の作成はこれから、もしくは変化に対応している途中であることが分かる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

「社内の定期会議では、経営戦略やマーケットの変化について活発な議論が行われており、役員間での情報共有が進んでいる。これにより、全社員への理解促進が図られている。」

## ●高グループ（成熟度4，5）

「中期経営計画やDX戦略をIRや統合報告書、社内資料で明文化し、経営会議で方針と進捗を定期報告。取締役会や投資家説明会でも資料を用いて戦略を発信し、社内外の共有と透明性を確保している。」

中グループは、社内の定期会議を通じて経営戦略やマーケットの変化に関する情報を活発に共有している、最後に高グループは明確な中期経営計画に基づき、戦略とビジョンを全社的に積極的に発信し、共有していることがうかがえる。

# 指標3 経営トップのコミットメント

コミットメントという語に注目し、各グループがどのように述べているかを確認した。生成AI作成の文章は下部左側に記載。

**指標3の設問：**経営トップのコミットメント：ビジョンの実現に向けて、ビジネスモデルや業務プロセス、企業文化を変革するために、組織整備、人材・予算の配分、プロジェクト管理や人事評価の見直し等の仕組みが、経営のリーダーシップの下、明確化され、実践されているか。

## ●低グループ（成熟度0，1）

- ・ 経営トップのコミットメントの下、ビジョンが示されていない。
- ・ トップダウンの指示があっても仕組みが整備されていない。
- ・ 社長がビジョンを発信しているが、実践は限定的である。

DX推進に向けた経営のリーダーシップとビジョンが欠如しており、企業としての取り組みが限定的な状況であることが分かる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

- ・ 経営トップ自らがリーダーシップを発揮している。
- ・ 経営のリーダーシップの下、ビジョンの共有が進む。
- ・ 経営層が参加する会議で進捗状況を共有している。

一定のリーダーシップが見られる。

## ●高グループ（成熟度4，5）

- ・ 経営トップがビジョン実現に向けて強いリーダーシップを発揮。
- ・ 経営層が定期的にDX推進状況を確認している。
- ・ 社長が全社的な方針をビジョンとして発信している。

経営陣の強いリーダーシップの下、組織全体の取り組みが進んでおり、持続可能な成長を実現するための基盤が整っていることが示されている。

# 指標3 経営トップのコミットメント

エビデンス欄でよく使われている語に注目し、現在値のレベル別に特定した対応分析結果（下図）と、キーワードを使用して生成AIが作成した例示テキストを示す。下線は注目した語句。

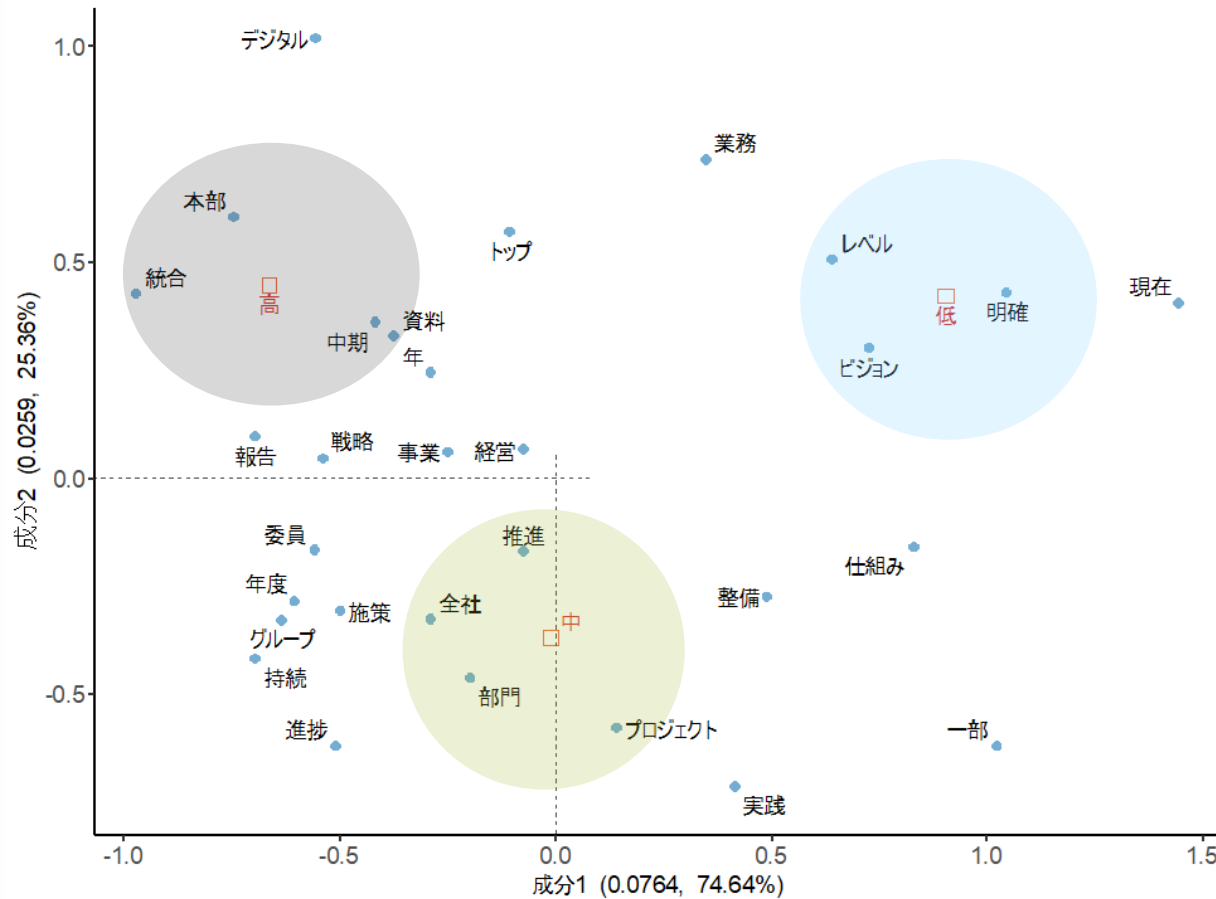


図 3-5 指標3 エビデンスの対応分析

## ●低グループ（成熟度0，1）

「中期経営計画を策定しておらず、ビジョンが明確でないため、全社的なDX推進の仕組みが不十分である。これにより、具体的な取り組みが進んでおらず、成熟度レベルは低いと判断される。」

DX推進において明確なビジョンや計画がない、もしくは現在作成している途中であり、具体的なDXのための取り組みやプロジェクトの実行までには至っていないことがうかがえる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

「全社的なDX推進のために、各部門が連携してプロジェクトを立ち上げている。定期的な進捗確認を行い、課題解決に向けた取り組みを進めている状態である。」

## ●高グループ（成熟度4，5）

「中期経営計画に基づき、統合された本部がDX推進を担っている。資料を通じて進捗状況を定期的に確認し、全社的な取り組みを強化している状況である。」

中グループは、プロジェクトなど部門単位での取り組みはあるが、高グループのように本部がDX推進のための権限を持ち、中期経営計画に基づいた取り組みにはまだ到達していないと考えられる。

# 指標4 マインドセット

マインドセットという語に注目し、各グループがどのように述べているかを確認した。生成AI作成の文章は下部左側に記載。

**指標4の設問：**マインドセット、企業文化：挑戦を促し失敗から学ぶプロセスをスピーディーに実行し、継続できる仕組みが構築できているか。

## ●低グループ（成熟度0，1）

- ・ 経営者が挑戦を促すが全社的な実践には至っていない。
- ・ 失敗を恐れず挑戦する意識があるが、文化として定着していない。
- ・ 一部で挑戦を促す声掛けはあるが、仕組み化はできていない。

挑戦マインドはいまだ組織文化としては根づいておらず、実践はこれからであることがうかがえる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

- ・ 経営陣が挑戦を促し、失敗から学ぶ姿勢を浸透させている。
- ・ 失敗を恐れず挑戦する文化が芽生えつつあるが、全社的な展開は不十分。
- ・ チャレンジを重視した業務実践が進められ、文化が醸成されている。

挑戦マインドの芽生えが見られるものの、全社的な展開にはいたっていないことがうかがえる。

## ●高グループ（成熟度4，5）

- ・ 失敗を恐れず挑戦する文化が定着しつつあると認識されている。
- ・ 経営者が挑戦を奨励し、全社員の意識改革が進んでいる。
- ・ 挑戦と学びを重視する文化が根づいており、全社で実践されている。

挑戦と学びの文化が実践されており、経営層のリーダーシップが効果的に働いていることがうかがえる。

# 指標4 マインドセット

エビデンス欄でよく使われている語に注目し、現在値のレベル別に特定した対応分析結果（下図）と、キーワードを使用して生成AIが作成した例示テキストを示す。下線は注目した語句。

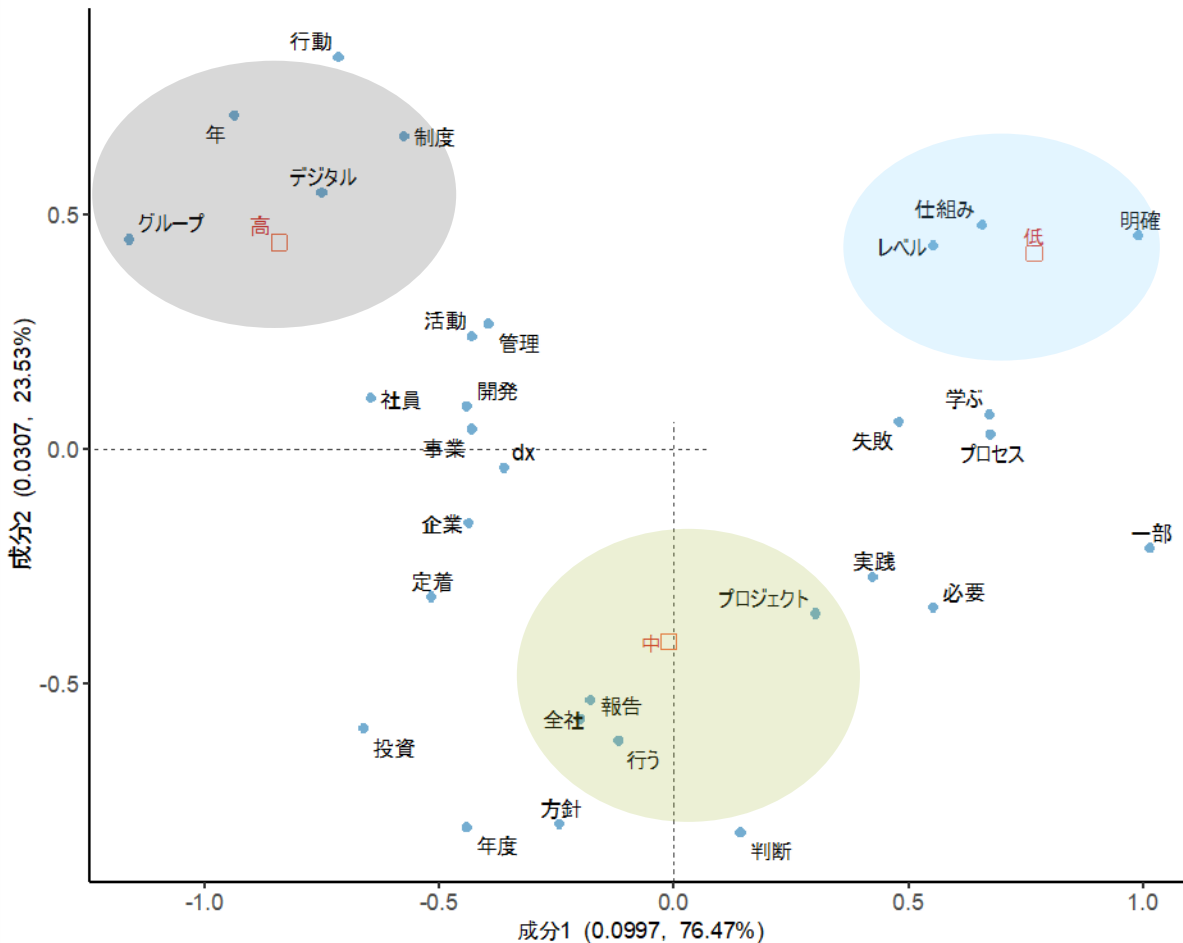


図 3-7 指標4 エビデンスの対応分析

## ●低グループ（成熟度0，1）

「業内においては、仕組みが明確化されていない状況が続いている。レベル1の段階で、挑戦を促す文化は存在するものの、失敗から学ぶプロセスが定着しておらず、全社的にスピード感を持った改善が求められる。今後の取り組みとして、具体的な評価基準の設定やプロセスの仕組み化が必要である。」

低グループでは企業文化としての挑戦や失敗から学ぶプロセスが未整備であり、仕組みが明確化されていないことが課題となっていることがうかがえる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

「全社的なプロジェクトにおいて、各部門が進捗報告を定期的に行う仕組みが整備されている。これにより、プロジェクトの状況を把握し、迅速な意思決定が可能となっている。」

## ●高グループ（成熟度4，5）

「当グループでは、デジタル推進のための制度を整備し、年々その効果を実感している。これにより、業務の効率化と革新が促進され、競争力を高めることに成功している。」

中グループではプロジェクトの実行など挑戦を促す文化の醸成に向けた取り組みを行っていると考えられる。そして高グループではデジタル技術の活用や制度の整備が進んでおり、年々業務の効率化や精度向上が実現しつつあり、全社的にデジタル推進の文化が根付いていることがうかがえる。

# 指標5 推進・サポート体制

サポートという語に注目し、各グループがどのように述べているかを確認した。生成AI作成の文章は下部左側に記載。

**指標5の設問：** 推進・サポート体制：DX推進がミッションとなっている部署や人員と、その役割が明確になっているか。また、必要な権限は与えられているか。

## ●低グループ（成熟度0，1）

- 各事業部門に対するガバナンスにおいてICT部門に必要な権限が与えられず影響が出ている。
- 社内のDX推進は経営企画室が担当になっているが、デジタル化はこれからというところである。
- 現在は人員が少なく、事業分野も限られているため、DX推進に向けた人員配置や役割分担が不明瞭である。

DX推進に関する体制や役割が十分に整備されていないことが共通してみられる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

- 各部門でのDX推進の取り組みを全社的にサポートしている。
- DX推進室が各部署の取り組みを牽引支援している。
- DX推進部門が全社のDX活動をサポートする体制を整備。

DX推進を担う専任の部署がおかれ、一定の体制や役割が整備されていることが分かる。

## ●高グループ（成熟度4，5）

- 各部門のDX推進をサポートする体制が整備されている。
- デジタル戦略部が全社のDX推進支援を行っている。
- 経営戦略と連携しDX推進を円滑に進める体制が構築。

経営戦略と連動し、組織全体のDX推進が一体となって進行する環境が整っていることがうかがえる。

# 指標5 推進・サポート体制

エビデンス欄でよく使われている語に注目し、現在値のレベル別に特定した対応分析結果（下図）と、キーワードを使用して生成AIが作成した例示テキストを示す。下線は注目した語句。

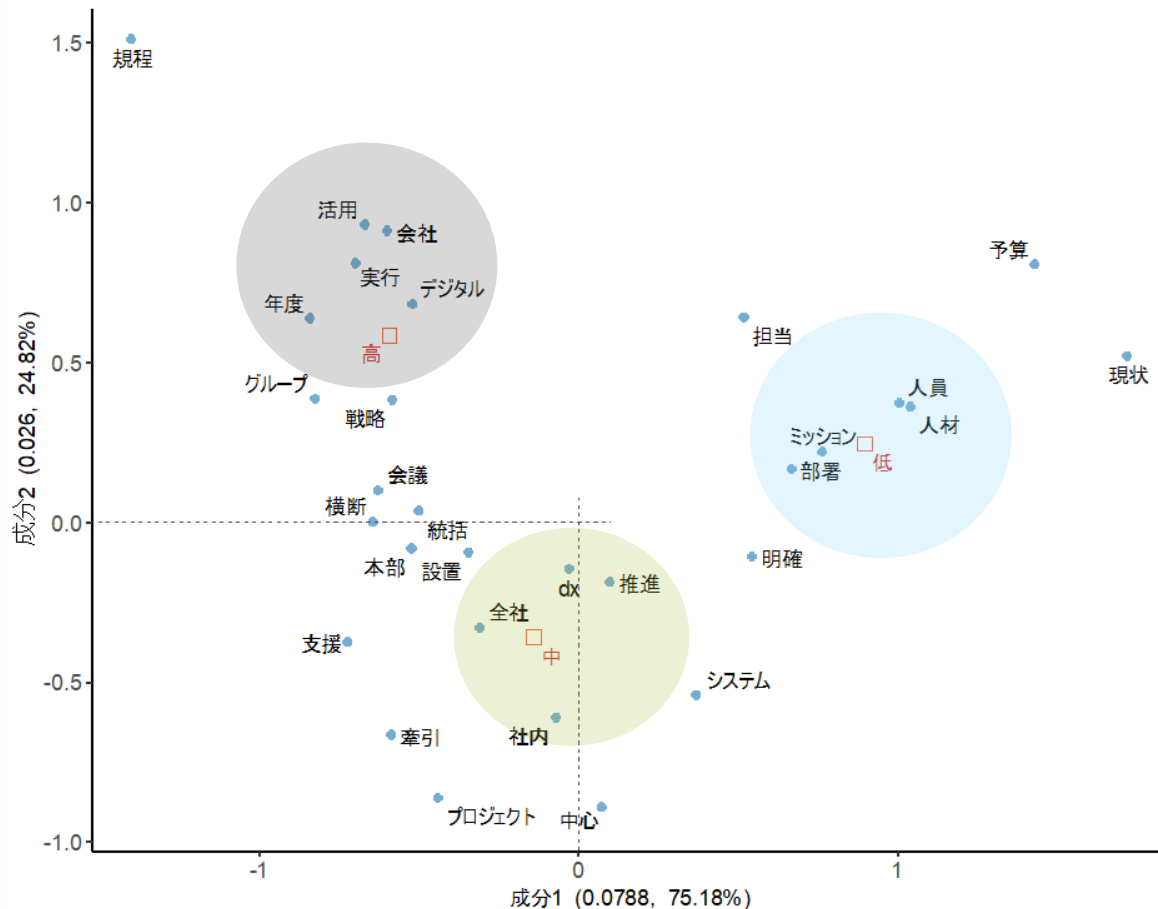


図 3-9 指標5 エビデンスの対応分析

## ●低グループ（成熟度0，1）

「社内のDX推進において、専任の人員や明確なミッションを持つ部署は存在しない。人材不足により、各部門の連携が不十分であり、試行錯誤の状態にとどまっている。」

低グループは人材不足が影響し、DX推進を担う人材や専任部署の設置が難しい状況がうかがえる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

「社内のDX推進に関して、全社的な体制が整備されているが、各部門との連携がまだ不十分である。今後、全社的な取り組みを強化し、より効果的な推進を図る必要がある。」

## ●高グループ（成熟度4，5）

「会社のデジタル戦略に基づき、年度ごとに具体的な実行計画を策定し、デジタル技術の活用を推進している。この取り組みにより、業務効率の向上と新たな価値創出を目指している。」

中グループでは、社内のDX推進に関して全社的な体制が整備されているものの、各部門との連携の不足があげられている。高グループではDX推進のための体制作りや実行計画が成熟した状態にあり、戦略的な取り組みが成果を上げつつあることがうかがえる。

# 指標6 人材育成・確保

育成という語に注目し、各グループがどのように述べているかを確認した。生成AI作成の文章は下部左側に記載。

**指標6の設問：**人材育成・確保：DX推進に必要な人材の育成・確保に向けた取り組みが行われているか。

## ●低グループ（成熟度0，1）

- 育成数の目標を共有して各部門で取り組みをしている。
- 人材育成に関する長期計画が無いが各部門においてOJTやOFFJTにより進めている。
- 採用計画や教育計画に具体的に落とし込まれていない。

育成に関する取り組みがまだない、もしくは各部門での個別対応となっており、全社的な取り組みまでには展開していないことがうかがえる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

- 全社向けのDX人材育成プログラムを立ち上げ中。
- 各部署で必要なスキルや研修を定義している。
- 外部研修を取り入れた社内教育メニューを提供。

スキルの定義や、外部研修を取り入れるなどの努力がされている一方で、全体的な育成計画についてはこれからであることが分かる。

## ●高グループ（成熟度4，5）

- 全社員向けにDX人材育成プログラムを実施中。
- 専門人材の採用や育成を計画的に進めている。
- 階層別教育を実施し全社員のスキル向上を図る。

全社員向けの育成プログラムや専門人材の採用・育成計画が戦略的に進められていることが分かる。

# 指標6 人材育成・確保

エビデンス欄でよく使われている語に注目し、現在値のレベル別に特定した対応分析結果（下図）と、キーワードを使用して生成AIが作成した例示テキストを示す。下線は注目した語句。

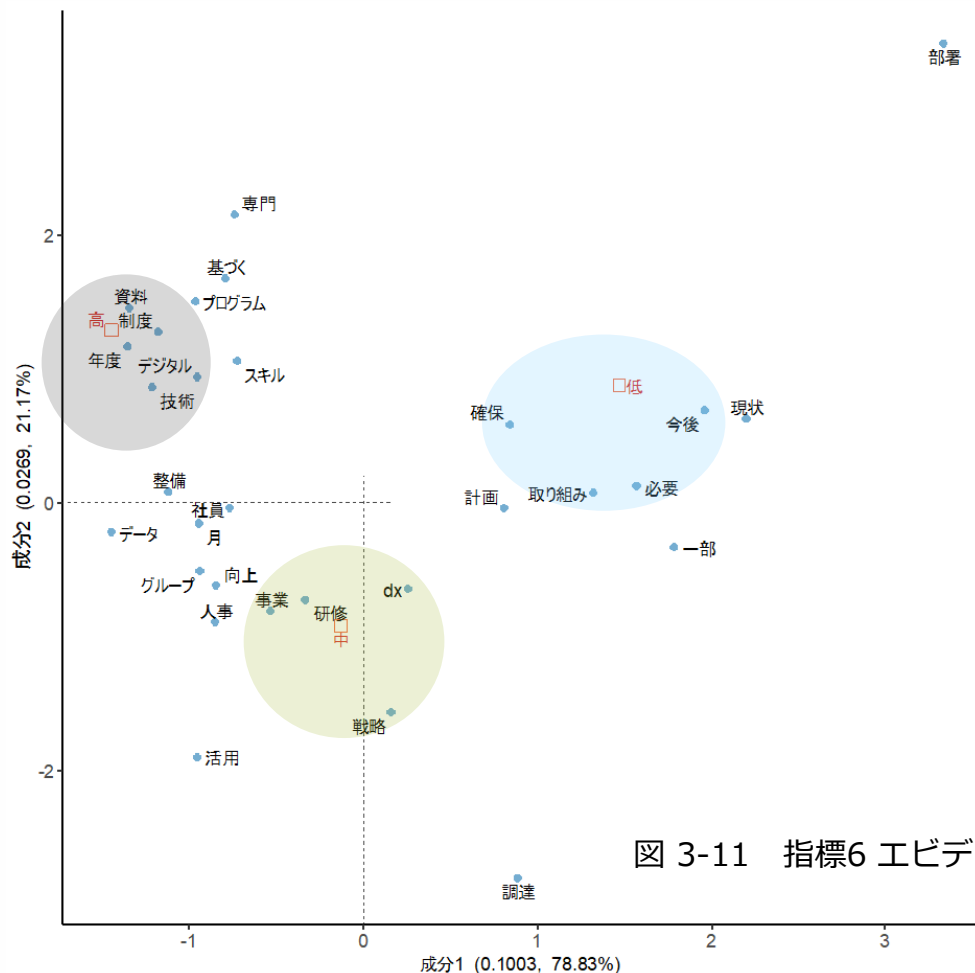


図 3-11 指標6 エビデンスの対応分析

## ●低グループ（成熟度0，1）

「今後のDX推進に向け、必要な人材の確保と教育体制の整備が求められている。各部門での取り組みはあるが、全社的な戦略が不十分であり、さらなる制度の確立が必要である。」

低グループでは育成の基盤が整っておらず、体系的な教育や制度がない、もしくはこれから整備していく段階であることがうかがえる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

「DX推進のための研修プログラムを策定し、各事業部門の戦略に沿った内容で実施している。全社的なDXリテラシーの向上を図ることが目的である。」

## ●高グループ（成熟度4，5）

「年度ごとにデジタル技術の向上を目指す制度を整備し、全社員に対して専門的な研修を実施している。これにより、組織全体のデジタル能力を高めることを目指しており、具体的に社内・社外向けの資料でも公開している。」

中グループでは、研修を通じてスキルの向上を図る意識が高く、DX推進に必要な研修プログラムが事業部門の戦略に基づき実施されていることがうかがえる。高グループでは全社員のDX人材化を目的として、全社的な育成体系が整備され、研修が実施されていることが分かる。

# 指標7 事業への落とし込み

改革という語に注目し、各グループがどのように述べているかを確認した。生成AI作成の文章は下部左側に記載。

**指標7の設問：**事業への落とし込み：DXを通じた顧客視点での価値創出に向け、ビジネスモデルや業務プロセス、企業文化の改革に対して、（現場の抵抗を抑えつつ、）経営者自らがリーダーシップを発揮して取り組んでいるか。

## ●低グループ（成熟度0，1）

- 経営者がリーダーシップを発揮し取り組みを始めたところである。
- 一部の部門で改革に向けた取り組みが進んでいるが、全社的な実践には至っていない。
- 現場の抵抗があるが、経営者が改革の必要性を説明し始めている。

改革の取り組みを始めたばかりであり、中には改革に対する理解と意識の不足から、現場の抵抗があるといった記述が見られる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

- 経営者がリーダーシップを発揮し全社的な改革を進めている。
- 各部署で業務プロセス改革が進行中で、定期的に評価している。
- 中期経営計画に基づき、全社で改革の必要性を周知している。

経営者がリーダーシップを発揮し、業務プロセス改革や全社的な周知・評価の実施など、全社を挙げた取り組みが進みつつあることがうかがえる

## ●高グループ（成熟度4，5）

- 経営トップが先頭に立ち企業文化の変革が行われている。
- DXを通じた顧客視点の価値創造が明確に示されている。
- 定期的なモニタリングにより改革の進捗が評価されている。

リーダーシップを発揮し、全社的な改革とモニタリングによる進捗の評価が進んでいることが分かる。

# 指標7 事業への落とし込み

エビデンス欄でよく使われている語に注目し、現在値のレベル別に特定した対応分析結果（下図）と、キーワードを使用して生成AIが作成した例示テキストを示す。下線は注目した語句。

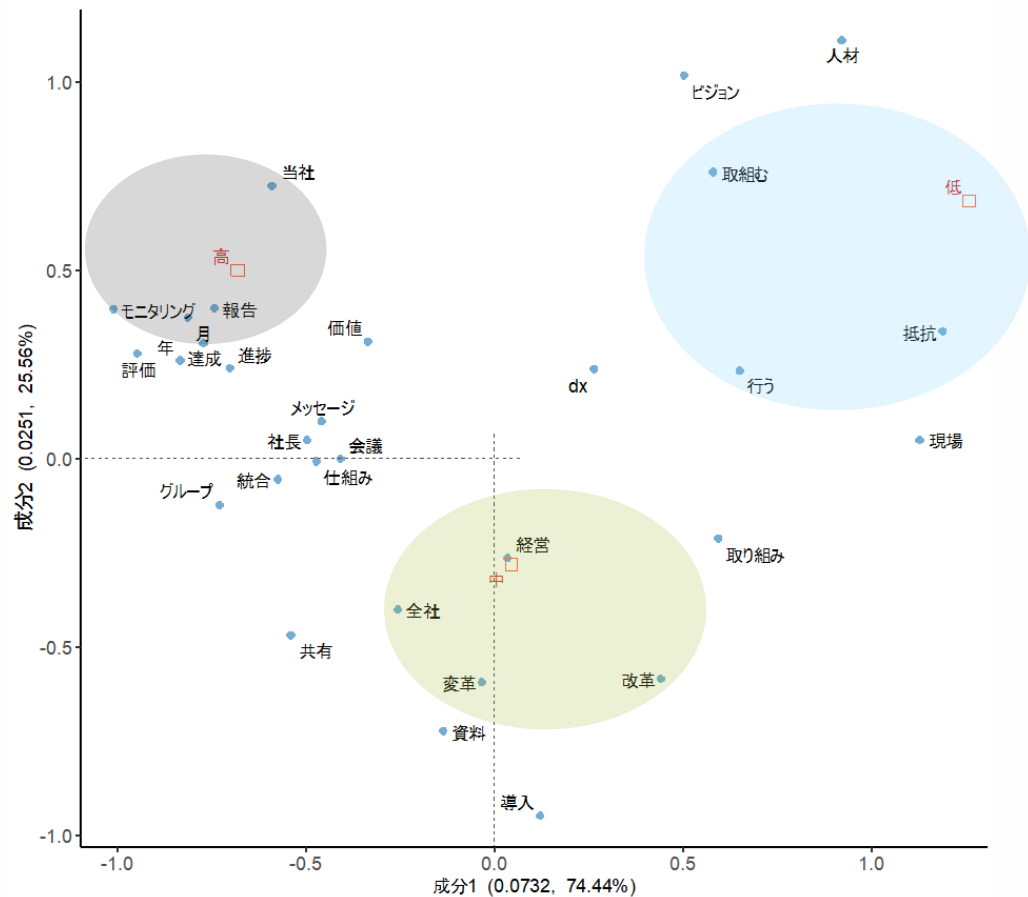


図 3-13 指標7 エビデンスの対応分析

## ●低グループ（成熟度0，1）

「社内でのデジタル化に対して抵抗があり、取り組みを行う意欲が低い。経営者は改革の重要性を訴えているが、実行に移すことができません、業務改善が進まない状況である。」

低グループではデジタル化に対する抵抗感があることから、改革の取り組みが遅れている、もしくは思うように進んでいないことが分かる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

「経営者が全社的な変革を推進しており、各部門で改革に向けた取り組みが進行中である。しかし、一部の部署では進捗が遅れており、全体の統一感が不足している状況だ。」

## ●高グループ（成熟度4，5）

「当社は月に一度、モニタリングの結果を報告し、改革の進捗状況を透明にしている。これにより、全社員が目標に向けての理解を深め、積極的に取り組む環境を整えている。」

中グループでは、改革の取り組みが進んでいるが、進捗にばらつきがあることがうかがえる。高グループでは、モニタリングと報告により全社的な取り組みが進んでいることが分かる。

# 指標8 ビジョン実現の基盤としてのITシステムの構築

ITシステムという語に注目し、各グループがどのように述べているかを確認した。生成AI作成の文章は下部左側に記載。

**指標8の設問：** ビジョン実現の基盤としての IT システムの構築： ビジョン実現（価値の創出）のためには、既存の IT システムにどのような見直しが必要であるかを認識し、対応策が講じられているか。

## ●低グループ（成熟度0，1）

- ・社内情報システム全体の棚卸しを行いレガシーシステムの対象を明確化した。
- ・既存システムについて全体構成は把握しているが業務との親和性データの活用に課題がある。
- ・部署毎にITに精通している人材がいるわけではなく、システム部門も問題点を把握しきれていない。

ITシステムの見直しのためにまず自社のシステムの現状把握を行っていることがうかがえる。一方で、人材不足により問題点の明確化に課題が生じているケースもみられる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

- ・既存のITシステムにどのような見直しが必要かを認識している。
- ・各部署のITシステムの見直しを進め、改善計画を策定中である。
- ・経営計画の中にITシステムの見直しが組み込まれている。

既存のITシステムの見直しや改善計画を策定し、戦略的に取り組んでいることが分かる。

## ●高グループ（成熟度4，5）

- ・データドリブン経営を支えるデータ活用基盤整備の必要性を認識。
- ・新基幹システムの構築に取り組んでおり、レガシーシステムの撤廃を進めている。
- ・システムの大胆な廃止統合を一定の目標のもとに進めている。

データの活用を念頭に置き データドリブン経営や新基幹システムの構築を進めている。

# 指標8 ビジョン実現の基盤としてのITシステムの構築

エビデンス欄でよく使われている語に注目し、現在値のレベル別に特定した対応分析結果（下図）と、キーワードを使用して生成AIが作成した例示テキストを示す。下線は注目した語句。

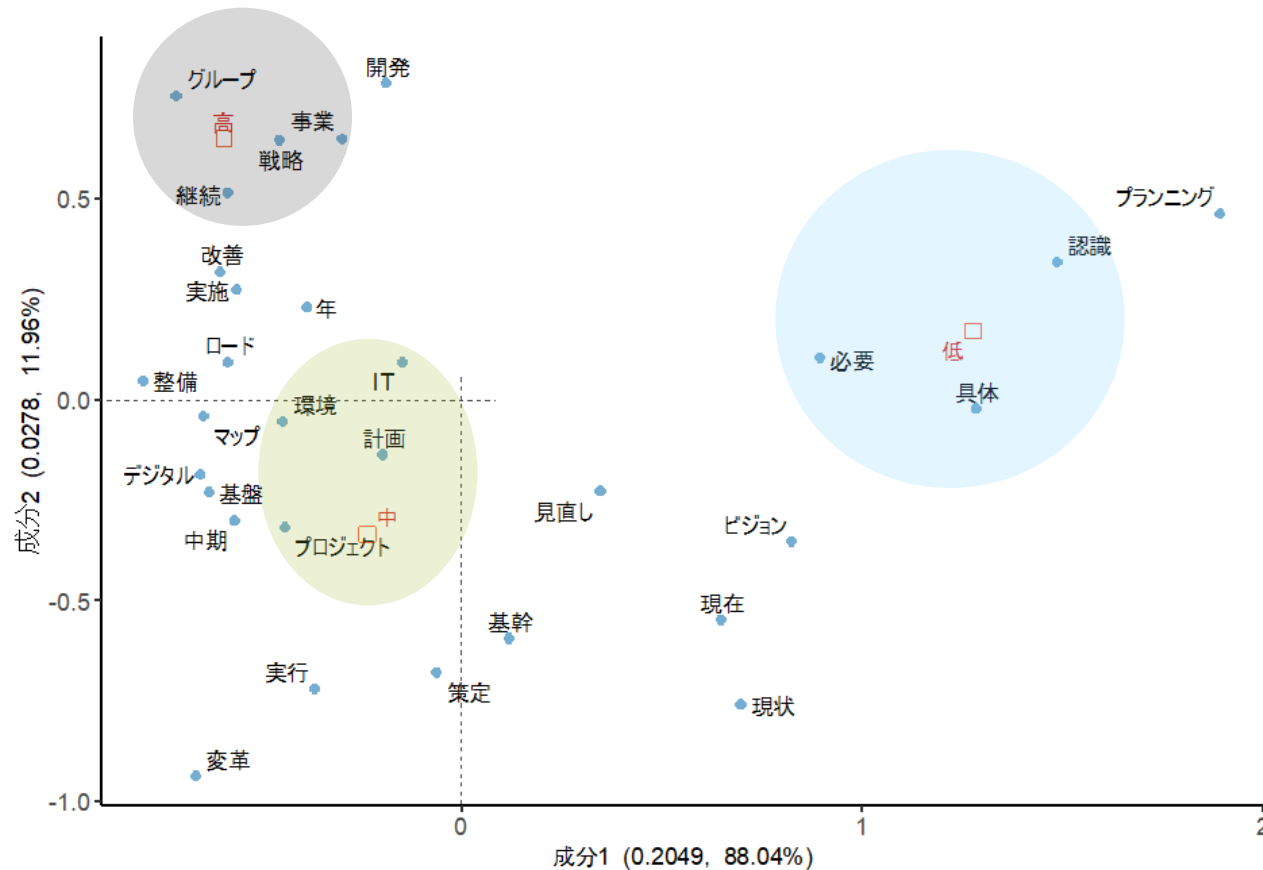


図 3-15 指標 8 エビデンスの対応分析

## ●低グループ（成熟度 0, 1）

「必要なITシステムの見直しが認識されているが、具体的なプランニングには至っていない。全社的な取り組みとしてはまだ不十分であり、具体策の提示が求められる状況である。」

低グループではIT環境の見直しに対する認識があるものの具体的な取り組みには至っておらず、全社的な取り組みが不足していることが分かる。

## ●中グループ（成熟度 2, 3）

「IT環境の改善に向けた計画が策定され、現在複数のプロジェクトが進行中である。これにより、業務効率の向上とデータ活用の促進を目指している状況である。」

## ●高グループ（成熟度 4, 5）

「グループ全体での継続的な事業戦略が策定されており、各部門が協力して実行に移している。これにより、全社的な価値創出と競争力の向上を図る取り組みが進行中である。」

中グループでは既存のITシステムの見直しのためのプロジェクトが進行していることが強調されている。高グループでは自社のみならず、グループを含めたITシステムの見直しが事業戦略として明確に策定され、実行に移されていることが分かる。

# 指標9 ガバナンス・体制

ガバナンスという語に注目し、各グループがどのように述べているかを確認した。生成AI作成の文章は下部左側に記載。

**指標9の設問：**ガバナンス・体制：ビジョンの実現に向けて、IT投資において、技術的負債を低減しつつ、価値の創出につながる領域へ資金・人材を重点配分できているか。（「技術的負債」：短期的な観点でシステムを開発し、結果として、長期的に保守費や運用費が高騰している状態のこと）

## ●低グループ（成熟度0，1）

- ITガバナンスは業務フローやガイドラインに沿って実施され周知されている。
- 資金人材の配分はガイドラインに基づき精査後に決裁が必要である。
- 技術的負債は新基幹PJにて見直しされる必要がある。

低グループではITガバナンスの体制は業務フローやガイドラインに沿って整備されつつあるものの、技術的負債への対応など課題も残る状況であることがうかがえる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

- IT投資計画を経営層と合意しリソース配分を決定している。
- ガバナンス体制を構築し投資案件の優先順位を議論している。
- 全社的なIT投資の方向性を経営会議で決定している。

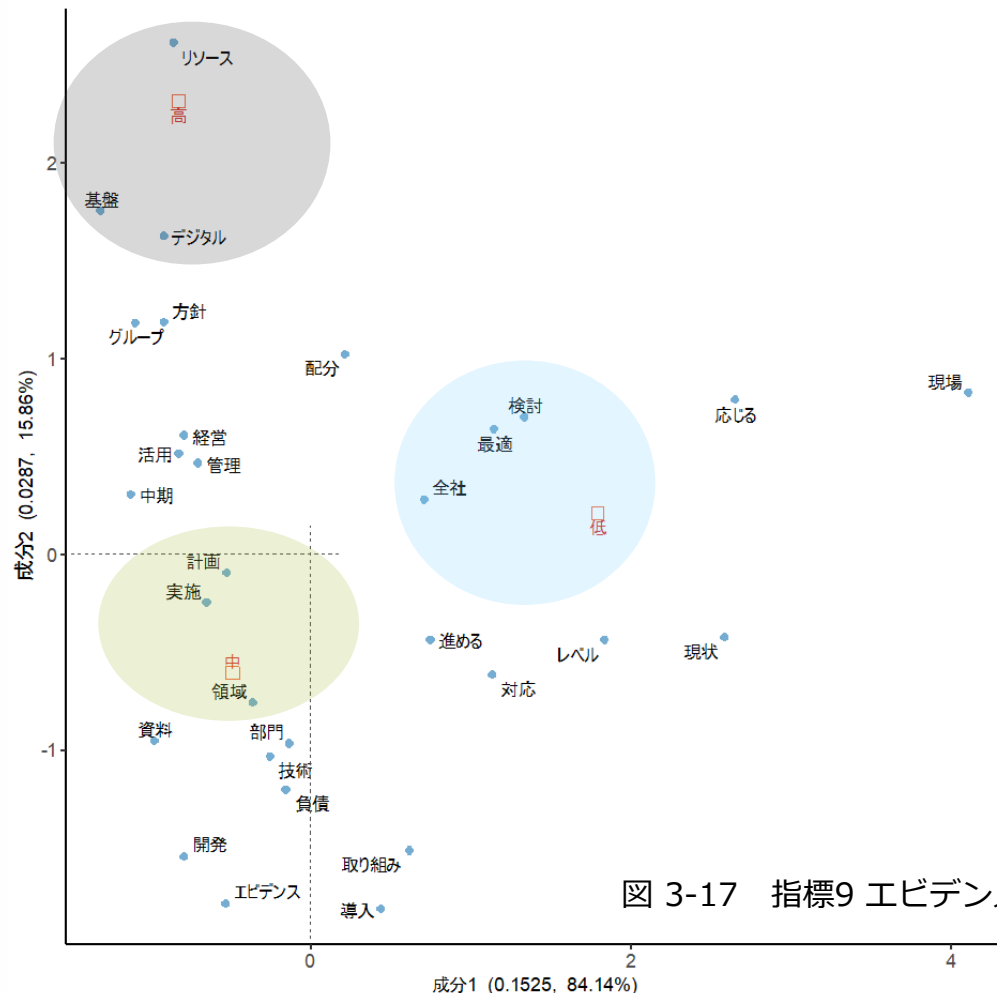
中グループや高グループでは、経営層によるIT投資の方向性やリソース配分など、全社的な視点でガバナンス体制を構築し、最適化を図る仕組みが確立されていることが分かる。

## ●高グループ（成熟度4，5）

- 経営トップがリーダーシップを発揮しIT予算を管理している。
- ITガバナンス方針を定め、投資の適切な実行を推進している。
- 投資効果をモニタリングし、資金の再配分を行っている。

# 指標9 ガバナンス・体制

エビデンス欄でよく使われている語に注目し、現在値のレベル別に特定した対応分析結果（下図）と、キーワードを使用して生成AIが作成した例示テキストを示す。下線は注目した語句。



## ●低グループ（成熟度0，1）

「IT投資における技術的負債の低減は部門単位で検討が行われているにとどまり、短期対応優先で全社最適を取り込んだ投資方針や資源再配分が未整備のため、統合的な負債削減が進んでいない状況である。」

低グループでは、全社的な視点からの資金や人材の配分が不足しており、いまだ具体的な計画が立てられていない状況にあることがうかがえる。

## ●中グループ（成熟度2，3）

「中期IT計画に基づき価値創出領域への投資計画を策定し、レガシー統合やクラウド移行を段階的に実施することで技術的負債を低減する計画である。定期的なモニタリングによりリソース配分を見直す体制である。」

## ●高グループ（成熟度4，5）

「全社視点でリソースポートフォリオを定期的に再配分し、クラウドを中核とした堅牢な基盤を整備し、デジタル投資の優先順位付けと人材育成を行い、ガバナンス体制で効果をモニタリングすることで技術的負債を着実に低減できている。」

中・高グループでは積極的にIT投資の計画や人材育成に取り組んでおり、特に高グループではグループ全体の戦略に基づいて各部門の評価を行い、技術的負債の低減に取り組んでいることが分かる。

2024年の自己診断の提出があった1,349件のエビデンスとアクション欄の記述内容を、テキストマイニングと生成AIを利用し、低・中・高グループ別に傾向を分析した。

各指標の例示テキストや対応分析に注目してみると、低グループは「認識はあるがこれからDXを具体化する、もしくは実行段階にある」、中グループは「計画や試行が進行中だが組織内の浸透や部門横断的な連携が不十分」、高グループは「経営戦略への組込、体制整備、モニタリングが機能している」という構図が繰り返されていた。

IPAでは本概要版の他に、アクション欄の傾向も分析したレポートの完全版も公開している。

## [DX推進指標 自己診断結果 分析レポート（2024年版） 付録 自己診断結果における自由記述テキストの分析](#)

自己診断のエビデンスとアクション欄への記述は任意となっているが、このテキスト分析のレポートをきっかけに、この欄を活用し、具体的な対策検討に役立てていただきたい。

IPA